四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓　自主・自律　協同

新座市立第四中学校学校だより　令和4年　10月3日　第7号
TEL　048-477-6053　　URL　www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon

その姿に触れ、改めて思う

校 長　鮫島　弘樹

空から降ってきた隕石が自分に当たる確率は、ある計算によると１００億分の１程度だそうです。約７０年前、実際に当たってケガをした方の記録が残っていますが、こうした事故は「不可抗力（人の力では防げない事態)」だといえます。

一方、誰かが投げた石が当たってケガをした場合は、「人為的な（人の行為による）」事故となります。

３年ぶりの体育祭を、９月１７日（土）に開催することができました。１年生はもちろんのこと、２、３年生とて誰も経験したことがありません。四中体育祭のイメージを持っている生徒が１人もいない中､手探りで準備を進めてきたのです。

結果は、私も胸が熱くなる程の、内容の濃い素晴らしい行事となりました。

懸命にタイヤを引き、網をくぐり、大縄を跳び、腕を振って全力で駆ける四中生たちの躍動感に満ちた姿や、力を出し切ったあとの自然で清々しい笑顔が、グラウンドの中に溢れていました。

断トツでゴールテープを切った選手に惜しみない拍手が送られる一方、大きく差を広げられながらも、最後まで真剣な走りでゴールした選手に対しては、仲間や保護者の方から温かい拍手が送られていました。

今回は、赤団と青団の２チーム対抗形式とし、持ち時間１０分間の応援合戦も盛り込んでみました。３年前まで行っていなかった、新たな試みです。

夏休み中にも練習を積んだ応援は、両団とも趣向が凝らされ大変充実した内容でした。キレのあるダンスがあり、綺麗に揃ったコールがあり、団長による感傷的なメッセージもありで、十分に見応えのある作品となっていました。

一昨年度や昨年度は、体育祭を実施できる状況にはありませんでした。人々が英知を結集しても抗うことのできない新種のウイルスがまん延したことは、いわば「不可抗力」であるといえます。様々な制約が生じたのは残念ではありますが、仕方のないことでもあります。

しかし､体育祭のような行事も含めて、貴重な学びの機会の多くを「人為的に」奪われてしまった子供たちがいました。今から８０年ほど前のことです。その原因は、戦争という過ちにあります。

「そんなことが絶対にあってはならない」言わずもがなですが、四中生たちが体育祭で汗を流す姿を見ながら、また、東欧での惨禍を思い浮かべながら、私は改めてその思いを強く持ちました。

実施の規模や参観の有無について、非常に悩んだ上で、今回は保護者の方のみの参観とさせていただきました。グラウンドから響く音を聞き、参観に駆けつけてくださった地域の方もいらしたと後から知り、心苦しく思っております。

来年こそは、ぜひ四中生たちの熱く、一生懸命な姿を、できるだけ多くの皆様にご覧いただきたいと願っています。